

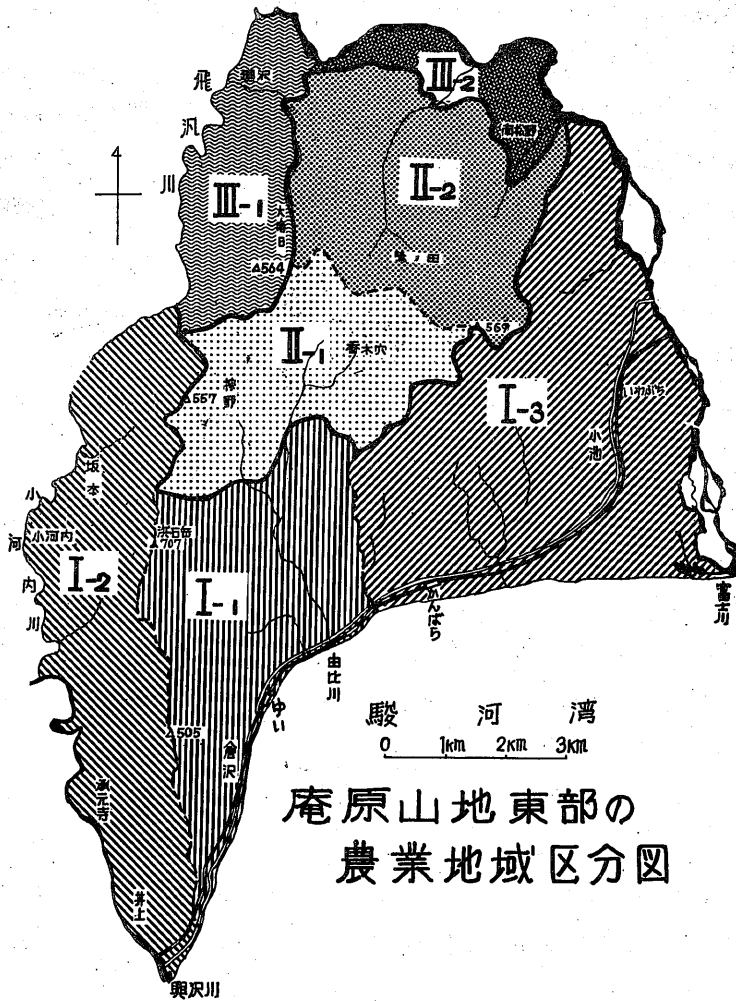
静岡県庵原山地東部の地形と

農業地域に関する考察

橋本直子

第一章 地域の概観

- ①地理的位置 ②気候 ③地形及び地質 ④土壌 ⑤歴史 ⑥産業



第二章 地形に関する考察

- ①水系・地形配置・地形区 ②山地斜面(平坦面) ③河谷地形 ④海岸地形

第三章 崩壊・地沁りに関する考察

- ①分布及び地質傾斜との関連 ②主要な地沁り地 ③人文現象との関係

第四章 農業土地利用の概況

- ①現況 ②土地利用の変遷 ③地形との関連

第五章 農業地域区分

- ①地域区分 ②南部農業地域 ③山間部農業地域 ④北部農業地域

第六章 要 約

調査地域は駿河湾西部の富士川右岸に位置し、行政的には、静岡県庵原郡、清水市及び富士郡の一部に相当する。本地域は最高峰を707mとする中起伏の山地によって形成され、平地は極く小面積で河谷低地に限られている。地質的には糸魚川—静岡構造線の内韭崎—静岡構造線の最南部に位置し、激しい地殻運動を受け多数の断層が走り、幾つかなの特異な地形も発達している。

地形に関しては、まずその配置を理解する為に大中地形区分を行い、更に次の様に小区分した。

1) 山地急斜面, 2) 山地緩斜面(平坦面), 3) 河岸段丘(上・中・下位面), 4) 谷底低地・氾濫原性低地・海岸低地, 5) 小扇状地・沖積錐, 6) 熔岩堆積面, 7) 海岸段丘。崩壊及び地沁りの分布図は別に作成した。

本論文では地形の内特に山地緩斜面(平坦面)、崩壊地沁りに重点を置いた。本山地の山頂・山腹には各所に平坦面が分布し、それ等は高度によって6~7段に分類される。平坦面は主として透水性良好な礫層や、小起伏の旧輪廻地形中に多い。又本地域は激しい地殻運動を受けている上、未固結礫層と風化侵蝕作用を受け易い泥岩が分布する為に、崩壊や地沁りの多発地域となっている。特に地沁り地は、主として上層に礫層が下層に泥岩層が分布する地域に一致している。以上のように平坦面・崩壊・地沁りの生成は地質と密接な関係がある。

農業土地利用の特色は、山地が多いにも拘らず傾斜地利用が発達し耕地率が全国平均を上廻っている事である。これは本地域には平地が少ない事、山頂・山腹には緩斜面が発達している事、気温が温暖な為に、傾斜地でも栽培可能な茶・柑橘栽培が行われている為である。次に、本地域の地域性を明らかにする為に、地形を含めた自然をベースとして地域区分を行った。その結果は次の通りである(附図参照)。

I 南部農業地域

I-1 南部柑橘集中農業地域

I-2 南部柑橘・茶農業地域

I-3 南部柑橘・水田・畑作農業地域

II 山間部農業地域

II-1 山間部柑橘農業地域

II-2 山間部柑橘・畑作農業地域

III 北部農業地域

III-1 北部水田・畑作・畜農業地域

III-2 北部水田・畑作農業地域

地域差を齎らす要因としては、1) 気温、2) 地形、3) 交通の便(位置)、4) 他産業との関係、5) 農業技術等の指導等が掲げられる。然し、何れにしても本地域は岳南工業地帯の西縁に位置する為に、兼業指向性が強く、この事は農業構造の弱体化を齎らしている。

綿スフ工業を中心にみた地域研究

～ 特に貝塚市を調査対象として

畑 野 邦 子

調査対象地である貝塚市は大阪湾の東岸に位し、大阪市とは20Km、和歌山市とは30Kmの地点に位置している。この地域は“和泉木綿”の名で知られる頃から泉州機業地の一かくとして発展し、現在では市の平野部、丘陵部を中心に多くの綿スフ工業の中小工場が地域企業集団を形成している。かかる地域を対象とする研究の中心課題は、(1)綿スフ工業が地域の中で如何に発展し、特に最近10年間「高度成長経済」下で如何なる動向を示しているか、(2)綿スフ工業が如何に地域の中で展開し、更に背景となる地域構造が如何に変化しつつあるか、この二点に設定し、論文内容を次の様な構成とした。

第1章 調査対象地の地域概観

(1) 位置及び沿革 (2) 地形と土地利用 (3) 農業の動向 (4) 人口

第2章 貝塚市における綿スフ工業の変遷

(1) 綿買い商人と機織農家 (2) 力織機工場の出現と賃労働者の形成 (3) 第一次大戦を契機とした本格的展開 (4) 戦後統制時代 (5) 第二次大戦後の復旧と30年迄の変遷